

自分の死は自分で決定する！～延命治療について考えよう～

ACPとは、年齢と病期にかかわらず、成人患者と、価値、人生の目標、将来の医療に関する望みを理解し共有し合うプロセスのこと。簡単に言うと、「アドバンス=事前の、前もって」「ケア=介護の世話」「プランニング=計画する」ということです。

多くの患者にとって、このプロセスには自分が意思決定できなくなったときに備えて、信用できる人もしくは人々を選んでおくことを含みます。



「万が一のときに備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるか、あなたの信頼する人たちと話し合うこと」「自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する」

「将来の意思決定能力の低下に備えて、患者様やそのご家族とケア全体の目標や具体的な治療・療養について話し合う過程（プロセス）」であると考えられています。

大切な人を亡くして心残りがある人に「どうしたら心残りがなかったか」と質問すると、最も多くの返答は「大切な人の苦痛がもっと緩和されていたら」「あらかじめ身近で大切な人と人生の最終段階について話し合っていたら」です。そこで、次の「**4つのお願い**」を考えて下さい。

●『**私の四つのお願い**』→日本の実情に合わせて作られた『**事前指示書**』

「四つのお願い」に法的拘束力はありません。しかし、ほとんどの医師をはじめとする医療関係者や介護関係者は、あなたのお願い がどのような内容だったとしても、それらに耳を傾けなければならないことを知っています。‘これを書く’というプロセスそのものが、最期の時だけでなく、**今をより大切に生きるための‘何か’に気づききっかけになる**のです

①患者様自身で、自分の医療・ケアに関する判断・決定ができなくなったとき、患者様に代わって決定してほしい人（代理判断者）を選びます。（代理判断者は配偶者や子供などの家族、親戚、親しい友人、あるいは患者様自身が信頼している人などの中から成人に達している人を選ぶ）

②患者様自身が「望む延命治療」・「望まない延命治療」を明らかにします。

延命治療とは、胃ろう、経管栄養、人工呼吸、心肺蘇生、大手術、輸血、人工透析、抗生剤投与などがあげられます。

③患者様の残された人生を快適に過ごし、充実したものにするためにどのようにしてほしいか。様々な苦痛を和らげるための処置や投薬のほか、日常的ケア（口腔内や皮膚のケア、身体の清潔、髭剃り・爪切り・髪をとかす・歯磨きなど）、誰かが側にいてくれる、話しかけたり・手を握ってもらう、可能であれば自分の家で死ぬことについての希望を書き出します。

④患者様自身の大切な人々に知っておいてほしいこと、伝えておきたいことを書き出します。

患者様の人生について、大切な家族や人々に対して心を込めて書くことが推奨されています。

●重要なポイントは、繰り返し話し合いを共有する、話し合う過程（プロセス）。何を大切にしたいのか、状況によって変化する意思を繰り返し共有していくことです。ご相談はスタッフまでお願いします。

※お知らせ※ 10/12(土)11/14(木)は院長 副院長学会出席の為お休みとなります。次回の当番日は 11/10(日)予定です。10/22(火)は通常診療いたします。

お薬手帳掲示のお願い:他医院処方薬との重複チェック、災害時の内服確認のため、来院時は毎回お持ちください